

行政調査報告書「建設常任委員会」

平成 21 年 7 月 13 日(月)～15 日(水)

■岩手県盛岡市『放置自転車対策、通勤レンタサイクル社会実験、交通渋滞対策について』



放置自転車対策は、平成 19 年に設置した条例に基づき、公共の場所の機能確保、まちの美観、市民の安全で快適な生活の保持に努めている。放置禁止区域を指定し、警告後撤去を行う。平成 20 年度は撤去 1800 台でそのうち返還 1000 台。返還の場合は手数料を徴収する。

通勤レンタサイクル社会実験は、自転車と鉄道を組み合わせることにより中心部での交通の利便性を図ること、また、市街地の緑辺部にも拠点置き、自転車と自動車を組み合わせることにより自動車の移動距離の短縮を図ることを目的として実施された。4ヶ月の実験で利用者は1日あたり3.5人であった。

交通渋滞対策については、オムニバスタウン計画を策定し、マイカーの利用規制と公共交通機関の利用促進を図っている。この計画は、ゾーンバスシステムと各種の支援施策との組み合わせから成り立っている。特に、運行体系の改善や走行環境の改善、利用条件の改善に努めている。本市のあんくるバスの運行対して大いに参考になった。

■宮城県『加瀬沼公園について』

昭和 49 年に公園基本計画を策定。昭和 58 年に事業着手。その後、4回にわたり変更事業認可を受けた。供用開始区域面積は 17.8ha。野球場、サッカー場、遊具、バーベキュー場、芝生の広がる広場がある。平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、管理機関は 3 年。1 件あたり 30 万円を超える修繕工事は県土木事務所が負担。

ネーミングライツを導入し、歳入の確保を図っている。自然を活かした緑溢れる公園であり、本市の油ヶ淵水辺公園整備の参考になった。



■神奈川県大和市『高座渋谷駅前複合ビル建設事業について』



本市同様、駅前の土地区画整理事業の一環で賑わいの場の創出拠点施設を設けている。土地区画整理事業では、事業面積 40ha で、従前の地権者約 1,000 戸のうち 900 戸が大幅な移転をする。駅周辺には歩行者専用道路を中心とした商業地形成、段差ゼロを目指した歩行者にやさしいまちづくりを目指している。

複合ビルの建設は、民間の自由な発想とノウハウを生かせる公募型プロポーザル方式を採用し事業者の選定を行った。事業手法は 30 年の定期借地方式。施設の中身は、公共は市役所出張所、生涯学習センター、図書館、市営交番などが、民間は生鮮スーパー、金融機関、温浴施設、飲食店などが入る。本市の中心市街地拠点整備事業、土地区画整理事業の推進のヒントになった。今後、参考にすべき点が多い。